

## 第7回 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会 議事録

日 時：平成28年3月29日（火） 13時30分～15時00分

場 所：秋田市役所研修棟2階 第1研修室

委員の定数：13人

出席委員：7人

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 秋田市エイジフレンドリーシティアンケートの調査結果について

平成28年度に策定する第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の基礎資料として、市民の行政ニーズや高齢者福祉施策への評価等を把握するため、平成27年12月に実施した市民意識調査結果について資料1をもとに、事務局から説明を行った。

委 員	高 齢 者 に 年 金 の 種 別 を 聞 く 設 問 は な か っ た の か 。
事 務 局	今 回 の 調 査 で は 設 問 が な か っ た 。
委 員	公 共 交 通 機 関 に つ い て だ が 、 病 院 、 買 物 な ど の 外 出 に 、 バ ス な ど の 公 共 交 通 機 関 を 使 わ ず に 自 家 用 車 を 利 用 し て い る 人 が ほ と ん ど で あ る 。 そ う い っ た 自 家 用 車 の 利 用 に つ い て 聞 く 設 問 は な か っ た の か 。
事 務 局	今 回 の 調 査 で は 公 共 交 通 機 関 の 利 用 状 況 の 把 握 を 主 眼 と し て い る た め 、 自 家 用 車 の 利 用 状 況 に 関 す る 設 問 は 行 っ て い な い 。
委 員	地 域 に よ っ て は 、 バ ス 停 ま で の 距 離 が 長 く 、 8 0 歳 、 8 5 歳 に な っ て も 運 転 免 許 を 手 放 さ れ な い と い う 話 を よ く 聞 く 。 次 回 は 調 査 事 項 に 加 え る な ど 、 意 見 を 参 考 に し て ほ し い 。
委 員	障 が い 者 の 社 会 参 加 に つ い て だ が 、 身 体 障 害 者 協 会 で 様 々 な 行 事 を や っ て も 参 加 率 が 悪 い 。 魅 力 を 感 じ な い 、 情 報 が 伝 わ ら な い な ど の 理 由 が あ る と 思 う が 、 ど う や っ て 障 が い 者 の 社 会 参 加 に 取 り 組 ん で い っ た ら 良 い か 頭 を 痛 め て い る 。
委 員 長	そ う し た 詳 細 な デ ー タ は あ る の か 。

事務局 アンケート調査は業務委託し、調査結果については報告書の形で受領しているが、データファイルとしても受け取っているので、独自に集計すれば、障がい者の社会参加状況について把握できると考えている。可能であれば事務局で集計し、今後報告させていただきたい。

委員 アンケート調査結果については、概ね想定されていた範囲内であった。その中で、エイジフレンドリーシティの認知度については「知っている（理念や取組内容を知っている）」が4.1%で非常に低いと感じた。一方、3月18日号広報あきたに平成27年度包括外部監査の結果が掲載されており、「エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の認知度は上がってはいるが、目標には達していない。市の成長戦略の1つでもあることから、今後更なる認知度の向上を図る必要がある。」という監査結果が載っている。この2つの認識の違いをどう捉えていくべきか。また、調査結果のP.42に「年を重ねること」への調査結果が載っている。年を重ねれば、結局は健康が一番重要になってくると思う。これをエイジフレンドリーで前面に押し出していくのか、より大きく捉えて別の部署でやるべきと判断するのかはわからないが、きちんと考えていくべきだろう。アンケート調査の自由記述には、他の調査では見られないような切迫したものが感じられる。このアンケート結果を基に、どう議論して実行していくのか、推進委員としてもしっかりと考えていく必要があると感じた。

委員 セミナー等に来ている方を対象に認知度を確認する調査やってきたが、そうすると毎回関心を持ってきている方たちなので認知度が上がってきていた。しかし、一般の市民の方の認知度はまだまだ低いということを、改めて今回わかった。また、高齢化が進んだ社会へのマイナスイメージがこんなにも強いところについては、これからの取り組みの方向性を象徴していると思う。この3月、なかいちの県立美術館において展覧会を開催したが、展覧会で出てきた市内の高齢者は、マイナスイメージを持たれるような人だけではなくて、実に元気で活躍し、いろいろなことに取り組んでいる方たちが多かった。高齢化、高齢社会はマイナスだけではないことを、少しずつアピールしていきたいと考え、現在取り組んでいるところだ。また、エイジフレンドリーパートナー事業など、行政だけが旗振りをするのではなく、街中に高齢者に優しい取り組み行う事業者がふえ、シンボルマークをあちこちで見かけることができるような形に進めていきたいと考えている。

ただ本当にこのマイナスイメージや認知度の低さ、これらを次期行動計画で何を盛り込んで成果を出していくか、高齢者から様々な活動に参加していただくようにするのか、そのためにはどうしたらよいか、これから一年をかけて計画をつくるので、ぜひ委員のみなさまからのご意見をいただきたい。

委員長

「周囲から孤立を感じるか」という設問で、高齢者の方よりも、20代から50代の方が、「感じる」「やや感じる」割合が高かった点が気になった。「エイジフレンドリーシティ」は高齢者にやさしいまちづくりではあるが、あらゆる人にとってやさしいまちづくりという視点も必要なことから、こうした結果もきちんと押さえた方が良さそう。

有効回答率も割と高いと感じた。福祉や高齢社会の問題については関心度が高い結果だろう。先ほど年金種別の設問が無いとの意見があったが、経済面は幸せ度にもつながってくるので、今回の調査で、そのあたりの調査が手薄だったかなと改めて感じた。経済面の不安がないからこそ楽しく生きられる、生きがいを持つことにつながり、これら常に連動していると見ていかなければならない。

委員

調査結果を見て、クロス集計という言葉をこうした場面で使うのかと疑問に思った。

大変多くのデータを集計してもらっているが、クロス集計の縦軸、横軸の揃え方に統一感がなく見づらかったり、コメント文の意味が通じない部分もあった。調査結果はもうすでに冊子としてまとめられているため、これからの修正は難しいだろうが、指摘しておきたい。

事務局

ご指摘の通りである。もう一回コメントなどの見直しを行い、修正可能な部分ではできるだけ対応していきたい。

委員

アンケートなどで意見をもらおうと、批判など、マイナスな意見が出やすいのかなと思う。マイナスが出ても構わないのだが、良い結果についても前面に出せるようなまとめ方があれば良いと思う。

委員

自由回答を見てみると、「市役所の紹介はインターネットで見てくださいと言われた。」というものや「自転車のマナーは秋田市が世界最悪です。」という意見があった。高齢者に対して、「インターネットを見てください。」という対応はあってはならない

ことだし、自転車のルールは、子供から大人まで、市役所や教育委員会、職場も含めて、周知徹底して改善できるようアクションを起こすべきと思う。一つ一つの意見を分析して、取捨選択しながら、これらの課題をどうするのか、早い時期に決めて組織的に動くことが必要だ。

「前例がないからやらない。」「コストがかかるからできない。」「人がいないからできない。」など、そうした前例は打破していく必要がある。やってみてあまりリスクがあったらひきかえす、いろいろ試行錯誤するというような事も必要だと思う。コストには一定の枠があるので限界があるが、その場合は知恵を出すことが大切だ。またもっとも重要なのは、こうした問題について市役所だけでなく、企業、団体、市民からの知恵を引き出す工夫も必要だ。エイジフレンドリーパートナー企業をもっと増やし、協力してもらおうなど工夫できる点があるのではないかな。時間をかけずに、コストをかけずにやる、そのために知恵をだす、皆さんの協力を得る、そうすれば難しいことではないだろうと思う。

委員長 私も自由記述の量の多さにまず驚いた。アンケートで○×で答えてもらうよりも、むしろ自由記述で書かれていることの方が生の意見として見えてくるものがある。膨大だが、一つ一つ丹念に拾い上げて、アンケートの中に含まれていてもいい内容は、そちらに整理する、すぐに解決できそうなものは素早く対応することが必要だろう。

委員 私は西部地区だが、栗田町の街灯が少ないという自由回答が2ページにわたって出てる。町内会では「防犯灯などが不足と思ったら遠慮なく申し出てください、必要であれば市に依頼します。」と常々話しているのだが、こうやって意見が出てくるんだと身につまされた。他にもいろいろな意見があり、非常に大事な意味のあるアンケートではなかったかなと思う。

委員 あきらかに他県出身で秋田に来た人とか、秋田に生まれ育ち、一度出てまた帰ってきた人が書いたとわかる文章がある。ずっと秋田にいと当たり前前思ってしまうことが多いが、こうした外からの視点は的を得ているので参考にすべきであろう。

## (2) 平成27年度事業報告および平成28年度取組について

資料2をもとに、事務局から説明を行った。

委 員	員	やはり民間から手助けしてやらないと思い、エイジフレンドリーパートナーについて、会議などで紹介し協力させてもらっている。しかし、エイジフレンドリーについてよく知られていないので、その説明から始めないといけない。パートナー企業が増えれば、「この店はこういう風に迎え入れをしてくれるんだ。」とわかり、街に活気が生まれ変わってくると思う。高齢者も障がい者も入りやすいお店にあふれた街づくりを、我々民間も目指している。それと要望だが、行政は発信力が弱く、PRが全然足りない。徹底的に、無料の新聞やラジオ等を積極的に活用した方が良い。
委 員	長	若手が頑張っている企業も増えてきているので、そうした企業と協力できるとよい。 また、studio-Lの山崎亮氏と一緒にやっている事業（高齢者コミュニティ活動創出・支援事業）について報告があったが、山崎氏の活動に関心を持っている若い人は多いので、ぜひこれを機会に、若者を巻き込むことができれば良い。
委 員	員	アンケートで、インフラの整備に関することが大変不満という声が多かったような気がするが、建築に特化してみると建物が古いという意見が多かった。業界としては古い住宅について、耐震化を一生懸命進めているわけだが、基本的に古い住宅というのは高齢者が暮らしていることが多い。年金生活だと古い建物を何とかしようとしてもできないパターンの場合が大きいので、古いから駄目というすぐ結論になる。しかし、むしろ古いから情緒があって良いなど、前向きな意味で捉え、それをどう利活用していけばいいのかという議論がよりあればいいのではないかという気がした。
事 務	局	展覧会「2240歳スタイル」では、88歳男性の一人暮らし高齢者の居間の一部を、実際に使用している物を借りて再現したところ、特に若い人から、「おじいちゃん、おばあちゃんの家を思い出した。」「実家とそっくり。」「なんだか懐かしい気持ちになった。」という意見が多く寄せられた。委員からの意見を伺って、エイジフレンドリーシティの取組の中で、古いものの価値をきちんと伝えていくことは重要であると感じた。
委 員	員	立派なプロジェクトに取り組んでいるのだから、従来やってきたことの評価と反省をふまえて、もっと市民からの認知度を上げることを目的に、時間をかけずに、大胆に、戦略的にかつコストをかけずに成果が出るようにしなければならないと思うので、その

ためには何回も言うように、行政だけじゃなく市民、団体を巻き込みながら具体的に1つ1つきちんとやっていくしかないだろうと思う。

委員 「2240歳スタイル」の冊子では、取材された高齢者の名前がイニシャルになっていたが、個人情報ということで名前をふせたのか。

事務局 一部の方は実名では無くイニシャルでの掲載を希望されたため、全員統一したものである。

委員長 他にないか、

事務局 事務局より、人事異動による平成28年度からの事務局体制について説明を行った。

以上。

### 3 閉会